

(2) 久慈川の自然地

久慈川流域の地形・地質および気候などの独自の自然条件により、現在の久慈川は樹林、竹林、草地、池沼、砂州や瀬や淵など多様な自然環境を形成している。久慈川の多様な自然環境の中でも、特にまとまった規模で、多くの生物の生息・生育環境となる重要な場所、あるいは久慈川の特徴的な環境が良好な状態で保全されている場所など、中・下流部における久慈川の主な自然拠点について、以下に記述する。

1) 富岡橋上流地区(常陸大宮市)

上流区間(21~31km)の河床勾配は約1/750、河床材料は粒径18mm程度の粗礫で構成され、川の中には複列の砂州が発達し、瀬と淵が連続している。

常陸大宮市辰ノ口から富岡橋までの区間は、河川中流域に特徴的な砂礫河原が発達し、中州や砂州が形成されている。河川沿いには水害防備林の竹林が広がり、上流部の瀬と淵の連続する河川環境と共に清流久慈川の景観を形成している。

砂礫河原には植物の侵入が少なく、砂礫地で繁殖するチドリ類の繁殖地となっている。また、この区間の瀬は、河床の砂礫の大きさがアユ、ウグイの産卵に適した場所となっている。その一方で、河原には釣り等のレジャーのための乗用車の乗り入れも見られる。

富岡橋上流地区(常陸大宮市)の位置▶



富岡橋上流地区(常陸大宮市)の状況

(平成15年11月撮影)

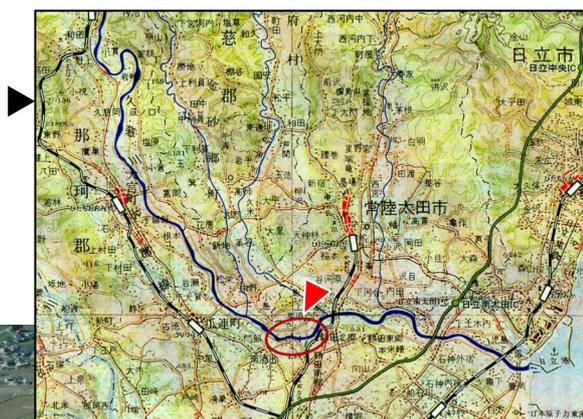
2) 粟原^{あわばら}周辺地区（常陸太田市，那珂市）

河床勾配は約 1/1,200 程度と上流区間に比較してやや緩やかとなり、河床材料も粒径 10mm 程度と上流に比較して小さな砂礫となる。砂州は湾曲部内側に発達している。

当該地は、河川勾配も緩くなり、側方侵食による河川蛇行が起り、かつては久慈川が大きく逆 S 字型に湾曲していたところである。旧河道は^{かせきこ}河跡湖として残り、流水環境の河川と止水環境の池沼が近接する特異な環境となっている。常陸太田市粟原の河跡湖は、茨城県内でも珍しい三日月湖のひとつであり、広域的に見ても重要な地形である。また、抽水植物のガマが繁茂する池や、浮葉植物のヒシが水面に広がる池などがあり、水鳥の隠れ場所や、止水性の水生生物の生息場所となっている。

粟原地区一帯は、池沼、ヨシ原、樹林、スギの植林地、斜面林、崖地など、多様な環境から構成されているため、鳥類については猛禽類から、猛禽類の餌となる小動物や昆虫類、魚類等のバランスよい生息環境が形成されている。^{とこがため}床固の上流域には入り江、細流などもあり、生物多様性の高い久慈川最大の自然拠点地となっている。冬季にはコミミズクやチュウヒなどが飛来し、豊かな自然環境が残されている地域である。しかしながら、当該地も湿地環境が減少する傾向にあり、将来にむけて自然環境の回復など課題も残されている。

粟原周辺地区
（常陸太田市，那珂市）の位置



粟原周辺地区（常陸太田市，那珂市）の状況 (平成 15 年 11 月撮影)

第5章 久慈川の自然

3) 里川合流地区(日立市, 常陸太田市, 那珂市)

河床勾配は約 1/1,600 程度、河床材料は径 2~6mm 程度の粗砂及び細礫となり、湾曲部内側には砂州の発達が見られる。

久慈川の湾曲した部分であり、左岸側に砂州が形成されている。河原の砂礫地ではイカルチドリなどが繁殖している。洪水の影響が少なくなった河川では、砂礫地に砂が堆積し植物が繁茂するため、イカルチドリがコロニーを形成できるような砂礫地は全国的に減少している。

砂礫地に隣接する樹林帯は、久慈川流域最大のサギ類のコロニーとして知られている。この樹林は河川本来の植生とは異なるが、樹林の周囲はアズマネザサに囲まれており、人が近付くことが容易でないため、サギ類が安心して繁殖できる場所となっている。

この地域には侵入困難な樹林地など、鳥類の繁殖に適した場所が残っていたために、チドリ類やサギ類の繁殖する野鳥の聖域となっている。

里川合流地区

(日立市, 常陸太田市, 那珂市) の位置



里川合流地区(日立市, 常陸太田市, 那珂市) の状況 (平成 15 年 11 月撮影)

4) 河口地区(日立市, 東海村)

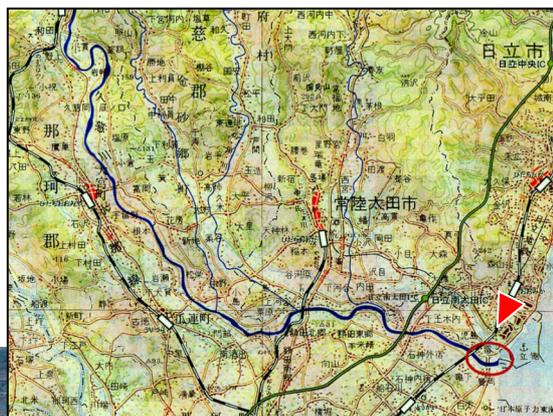
河口部の河床材料は粒径 2mm 程度の砂である。久慈大橋付近は、低水路が狭く、干潮時には干潟が現れ河口は閉鎖傾向にある。

榑橋付近から河口にかけての低地では蛇行の跡が見られ、又旧河川の氾濫原の細粒土の堆積した低地には水田が開かれている。

久慈川の大きな河口域は流域最大の解放水面が広がり、静かな水面として貴重な場所となっている。冬から春にかけて海岸には、ウミネコ、ユリカモメ、セグロカモメなど多くのカモメ類の群れが飛来し、静かな水面で羽を休めている。周辺の海岸沿いには大きな河口は少なく、久慈川の静かな河口は、カモメ類の休息の場として重要な場所となっている。しかし、まとまったヨシ原は少なく、昆虫類等の生息状況は良好とは言い難い状況にある。

また、静水域のため、最近ではジェットスキーなどのマリンスポーツも盛んに行なわれ、生物環境の保全との調和が課題となっている。

河口地区(日立市, 東海村)の位置 ▶



河口地区(日立市, 東海村)の状況

(平成 15 年 11 月撮影)